

## 教科書採択に対する韓国からの“公的”圧力の実態

2004年6月9日の産経新聞には、「韓国総領事 愛媛知事に不採択“圧力” 扶桑社発行歴史教科書 市民交流中断を示唆」という記事が載った。次のように記載されている。

『扶桑社発行の歴史教科書について、韓国総領事が今年四月に愛媛県庁を訪れた際、加戸守行知事に対し日韓交流の見直しなどを盾に取り、採択しないよう牽制する発言をしていたことが八日、分かった。中国と韓国はこれまでも日本の教科書の記述や制度に内政干渉を繰り返してきたが、韓国政府を代表する立場の当局者が、教科書採択に決定権を持つ地方自治体の首長に直接的な働きかけが明るみに出たのは初めて』(原文のまま)

この総領事は、次のように発言したという。「一つ(日韓関係で)気がかりなのは教科書問題です」「韓国では(教科書問題で)愛媛県は大変有名になりました」「そういうことが起こらないように知事にご配慮願いたい」「(そういうことが起こると)市民レベルの交流が中断されたり、政府も日本文化開放を中断しなければならなくなる」

何というあからさまな内政干渉であろう。このように理不尽な圧力を加える国との“友好関係”など、ありえようか？ 自分の国の教科書採択で、日本から圧力を受ければ、彼らはいったい何と言うだろうか？

同じような例は、市町村単位でもあった。ここに記録しておきたい。韓国・江原道の束草市長からの“要請文”である。

この要請文では、扶桑社の歴史教科書が「間違った内容」であると、さんざん繰り返している。これは、少なくとも日本の文部科学省の厳重な検定にパスした教科書である。扶桑社の教科書は、話題を集めたこともあり、通常よりも厳重に検査が行われた。特に中国・韓国に関連する記述では、両国に遠慮して、内容はずいぶんと変更までされた。

その教科書に対して、気軽に「間違った内容」と繰り返すのである。間違っているのは、どちらだ？ 韓国や中国の歴史教科書にこそ、間違いがたくさんあるのではないか。ふざけるな。

日本国憲法を、わざわざ“ 平和憲法の崇高な理念 ” と持ち上げておられる。そんなに素晴らしい平和憲法なら、韓国でも今から採用したらいい。なぜ採用しない？ 知性が疑われるような要請文を書くな。

2004年6月28日の『よみうり寸評』には、『鬼平犯科帳』からの引用がある。スリの三カ条として、次のように紹介されている。

一、金持ち以外の人からすり盗ってはならぬ

二、人前でわざと転び、抱き起こされるのを利用して盗るなど、汚いわざを仕かけてはならぬ

三、何人もが共同でわざを仕かけてはならぬ

6月24日の田園調布駅で、80歳の老女を男五人で取り囲み、財布をすり取った連中は、上記の三カ条すべてに違反している。まことに、スリの風上にもおけぬ、餓鬼・畜生ではないか。それが、韓国人武装スリ団の伝統的なやり口だ。

韓国総領事さん、束草市長さん、“ 東アジアの平和を脅威 ” しているのは、あんたこの国民なのだよ。恥を知りなさい。ちゃんと国民を教育してみなさいよ。

尊敬する 黒見哲夫 市長 様

東草市はこれまで貴市との相互交流のために訪問および、職員派遣などを通じて友好関係を深めてきました。貴市との交流は貴市の市民皆さんとの本当の意味での友情と兄弟愛を感じるようにし、世界化の時代を一緒にする同伴者という意識を与えてくださいました。しかし、近来、日本内の「新しい歴史教科書を作る会」で刊行した中学校用歴史教科書の間違った内容に対して、我が市民達を始めとする多くの国民達から憂慮の声が高く上がっています。

上記の教科書は過去の歴史的事実を間違っただけではなく、軍国主義、皇国史観を基に歴史を記述することによって、たくさんの犠牲をして得た世界平和と東アジア人の人権を脅威していると思います。

日本国政府の、扶桑社刊行の間違って記述された教科書を承認することは結局、世界中に日本国の信頼性を失墜させる結果を招くと判断し、韓国政府はこれの修正を要請してきましたが、このような努力にもかかわらず、東アジアの平和を脅威する「新しい歴史教科書を作る会」の歴史教科書が検定を通過し、今地方教育委員会の採択手

続きだけ残しているとのことです。

私たちは両国の若い青少年達がお互いを信頼して協力することによって近づいてくる未来の世界をもっと明るくて美しく作っていくことを期待します。

私たちは2002年ワールドカップの共同開催、日本文化の開放、そして、何回か日本を訪問し、皆様を迎える過程の中で日本、日本人を親しい隣として、また兄弟として理解するようになりました。

しかし、今度の教科書問題で我が市民と青少年達が日本に対して否定的な視覚を持つのではないかと心配になります。韓・日両国及び、我が市と貴市との望ましい未来を考えると、心痛いことだと思います。

これに私たちは教科書の採択の権限を持っている貴市の教育委員会の良心と常識に訴えます。人権と平和を無視して、間違っして記述されている教科書が貴市の学生達に教育されないことを願うとともに、また今まで築いてきた両地域の善隣友好関係に傷がつかないことを願いながら、尊敬する黒見哲夫市長様に、戦後民主主義体制守護と平和憲法の崇高な理念を否定した扶桑社刊行の教科書が採択さ

れないように関心を注いで下さることを心より要請し、さらに日本の知性を信じるところです。

2001年7月 日

江原道 東草市長 董 文 星